

シリア節水灌漑技プロ・カウンターパート研修

シリア国の節水灌漑技プロ（技術協力プロジェクト）のカウンターパート国内研修が1ヶ月間行われ、カウンターパートの灌漑技術者2名が参加した。今回の研修は、既存の研修コースにのせるのではなく、現在実施されている技プロの内容に合わせて「手作り」のコースを独自に組み立てた。主な研修内容は灌漑技術を始めとして、本技プロの重要課題の一つである普及や研修、試験研究と普及との連携、農協のしくみや役割、住民組織化や住民参加に関わることがら等である。

研修期間中は、我々技プロメンバーもできるだけカウンターパートと一緒に見学先に同行したり、講義も聴講して経験を共有することに努めた。これは研修そのものの効果を上げるためでもあり、さらにはこうした共通体験が今後の技プロ運営にも有意義に生かせると思ったからである。このように技プロメンバーがカウンターパート研修に参加することによって、講義における議論や理解が深められたり、また見学も単なる「物見遊山」的な訪問に終わることなく、中味の濃い物にすることができたものと考えられる。

下表に本研修の主な見学先あるいは講義を分類別にまとめた。

分類	見学先あるいは講義	主な内容
灌漑技術に関する事項	宮古土地改良区（宮古島）	地下ダム建設と灌漑農業の整備
	スプリンクラー工場	スプリンクラー製造工程及び製品試験方法
	灌漑技術等に関する講義	日本の灌漑技術、地下水シミュレーションモデル紹介
農業試験研究及び普及	日本の農業普及	日本の普及の歴史やしぐみ、現状に関する講義
	農業試験場の見学	農業試験場の役割や試験研究と普及との関係
	現場農家の見学	農家の農業生産の実態把握
農協の役割/農産物流通	農協の概要に関する講義	農協の歴史、しくみ及び役割等に関する講義
	農協の実務の見学	農協の運営する集出荷場や貯蔵システム等の見学
	大田市場見学	野菜・果物等の流通のしくみやセリの実際の見学
その他	研修計画手法及び評価方法	研修計画の策定や効果の評価に関する講義
	住民参加型開発	グラウンドワーク事業の見学
	つくば国際センター(TBIC)	実践的な研修の実施例

また、研修終了前にカウンターパートたちと話し合い、今回の日本での研修成果を振り返る評価・反省会を行った。その中で、今回の研修を今後プロジェクトを実施して行く上でどのように生かしていくか、ということに関しても議論された。日本とシリアでは状況が異なるために、日本の技術ややり方をそのままシリアに適用することはできないが、シリアの現状に合わせて修正したり、段階的に応用していくような努力が必要となる。ここで重要なことは、日本における研修では「技術」や情報そのものの習得だけでなく、日本の文化や日本人のメンタリティが技術の開発や確立、それぞれの活動の進展や波及に結びついていることにも思いをよせる必要があるという点である。こうした点も含めて、これからプロジェクトを進めていく中で、今回の研修におけるカウンターパートとの経験の共有を生かしながら、研修内容を振り返ってさらに議論したり、シリアという違った条件下でどのように応用していくかという検討が行われ、それによって研修の意義もさらに深められていくものと考えている。

(C/P 研修を終えて・湖東)



節水栽培による付加価値の高い高糖度トマトの生産（静岡の農家）



農協の運営するトマト選果場（千葉県・JA ちばみどり）



住民参加によって整備された河川（グラウンドワーク三島）